



連携事例8

R5.8 更新

旭・いいおか復興観光まちづくりプロジェクト

～被災の教訓から学び、言葉の力を信じた景観まちづくり～



飯岡刑部岬から見た風景

■協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

■事業運営団体

NPO 法人光と風

■協働パートナー

☆旭市観光写真ボランティア会 ☆旭市防災士サービス助士ネットワーク ☆飯岡研究所 ☆飯岡菓子組合 ☆飯岡宿泊組合 ☆飯岡土人形保存会 ☆紙芝居劇団ふく ☆NPO 法人みどりのネットワークちば ☆旭市赤十字奉仕団 ☆旭市赤十字防災ボランティア ☆旭市海上キャンプ場 ☆千葉科学大学 ☆塚原緑地研究所 ☆旭市 ☆旭市教育委員会 ☆旭市社会福祉協議会 ☆千葉県文化振興財団 ☆千葉県東部図書館 ☆旭市文化協会 ☆千葉県生涯大学校 ☆千葉県立匝瑳高校同窓会・飯匠会 ☆リフレの会 ☆株式会社醤油 ☆コブみらい ☆日本防災士協会 ☆損保 OB/OG の防災を考える有志の会 ☆高橋順子を囲む会 ☆銚子日本語教育の会 ☆旭いいおか文芸賞「海へ」実行委員会

■事業の手法

☆事業協力

■事業費

☆約 200 万円 (H29)

事業概要

旭市飯岡は東日本大震災によって甚大な被害を受けた体験を活かし、地域の特性を再発見し、被災以前に復旧ではなく、従前よりも質の高い状態にすることをNPOの設立目標として活動しています。

今年度の事業計画

- ①「郷土愛を育む」紙芝居の製作と上演活動
- ②「復興かわら版」編集発行
- ③「飯岡土人形の復元」特産品づくり
- ④「防災キャンプ」企画運営（事務局）
- ⑤「旭いいおか文芸賞」企画運営（事務局）
- ⑥「景観まちづくりフォーラム（in 旭）」参画

協働までの経緯

旭市飯岡の刑部岬の眺望は観光資源として重要であると同時に、3.11津波が撮影された場所でもあります。多数の動画や映像がネットに残されています。この事実は「自然との共生」「利益相反」…重要です。

復興井とその売り上げからの寄付を原資として、自らできる範囲でのボランティアが我々の活動の原点です。一人ひとり小さく弱くても、まとまれば出来ることがある筈。被災者だからこそ出来ることがある筈。

被災者への聞き取り調査をもとに「復興かわら版」編集、調査記録集「語り継ぐいいおか津波」発行、「津波防災教室」運営を展開・継続してきました。

「復興観光まちづくり」のコンセプトで、「いいおか津波復興プロジェクト協議会」を設立し、トヨタ財団助成金で「まちづくりコンペ」を実施。千葉県補助事業「連携・協働による地域課題解決モデル事業」への採択が、「円卓会議」を学ぶ好機となり、その過程でNPO法人格を取得することができました。

「まちづくり」にはヒトとカネが必要です。我々には「ないもの」です。無理すれば疲弊し、不測の軋轢が生じます。「まち」のイメージも「町・街・都市」等々、同床異夢。「みんな違っていい」を認めなければ「まち」にならない、には異論はありません。「あるもの？」は「復興への思い」。そこで「読み・書き・歌い・語り継ぐ」言葉の力によるまちづくりに到りました。

◎ 主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①防災教室+新作紙芝居(通蓮洞物語り、10月作製、11月上演)
- ②防災キャンプ教室(11月・1月・3月)
- ③復興かわら版(季刊予定)
- ④円卓会議・10月22日景観まちづくりフォーラム in 旭
・(テーマ)飯岡郷土資料館の存続/横田清蔵顕彰(日程未定)
- ⑤旭いいおか文芸賞「海へ」(9月~6月)
- ⑥飯岡土人形保存会(9月~)

◎ 主な協働パートナーとの役割分担

事業全般の管理運営(NPO光と風)、紙芝居(劇団ふく) 防災キャンプ(海上キャンプ場・NPOみどりネット・赤十字奉仕団など)、土人形(飯岡土人形保存会・文芸賞実行委員会)、文芸賞(旭市教育委員会・旭市社会福祉協議会・旭市文化協会・高橋順子を囲む会・千葉科学大学など)、CSR活動(ヤマ醤油・コープみらい・塚原緑地研究所など)、復興かわら版の企画・作成・配布(旭市・NPO光と風編集局)

◎ 協働事業によって生まれた成果

- 地域への愛着・復興への想いを共有する多様な主体がつながりました。
- 特性に応じた役割分担ができ、想定外に事業の幅が広がりました。
- 円卓会議を設置したことで、情報収集力・企画力・運営力が向上しました。
- 公的団体との協働により活動に対する信頼性が高まりました。

▷仮設住宅を震災資料として保存・展示している



◎ 今後力を入れていきたいこと

- 官民協働の場である『円卓会議』の灯を絶やさないこと。
- コミュニティ(ソーシャル)ビジネスの創出。
- 応急仮設住宅の保存と活用。
- 飯岡郷土資料館の活性化。



協働事例プロフィール

【活動開始年】平成12年(法人化:平成25年10月2日) 【活動のPR手法】WEB/広誌

【この事業で活用した補助金】

- ①国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金助成活動(H27・28・29)
- ②旭市 市民まちづくり支援事業(H23・29)
- ③セブンイレブン記念財団 公募助成(H26・27)

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】

- ①千葉県 ちばの「食」産業連絡協議会 食のちばの逸品を発掘2014「一般部門銅賞」(H25)
- ②千葉県コラボ大賞 復興観光 ―被災から花と緑いっぱいのもちづくり―(H26)
- ③コープみらい地域かがやき賞(H27)
- ④旭いいおか文芸賞「海へ」に関連する報道多数
- ⑤親子防災キャンプ(旭市海上キャンプ場) 内閣府(防災)津波防災の日関連事業(H27・28・29)

【問い合わせ先】担当者:鈴木 なみ子、林 梨奈

電話番号:0479-57-5777 メールアドレス:info@hikaritokaze.org